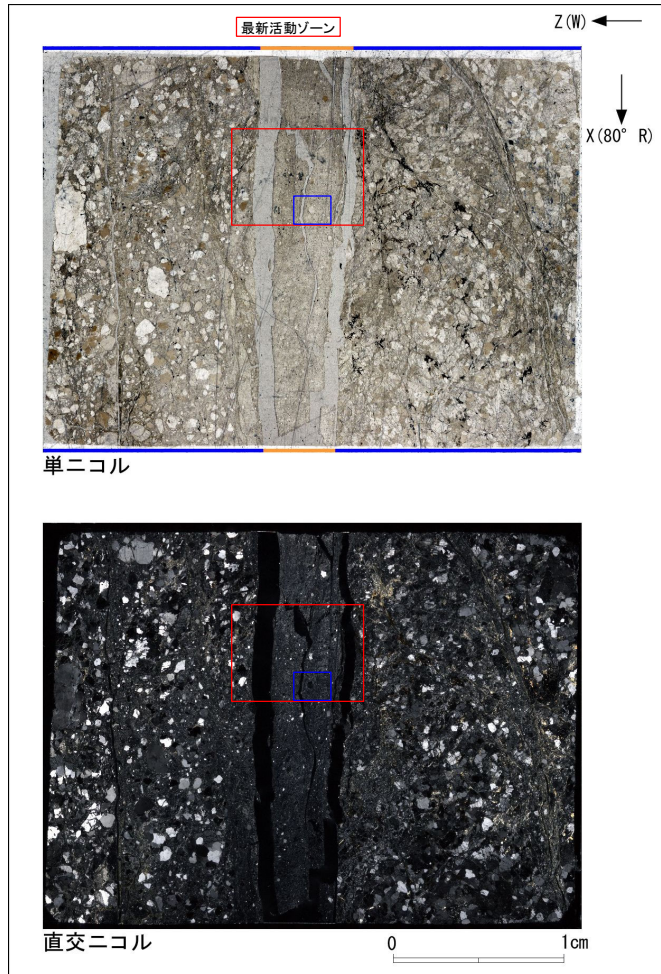
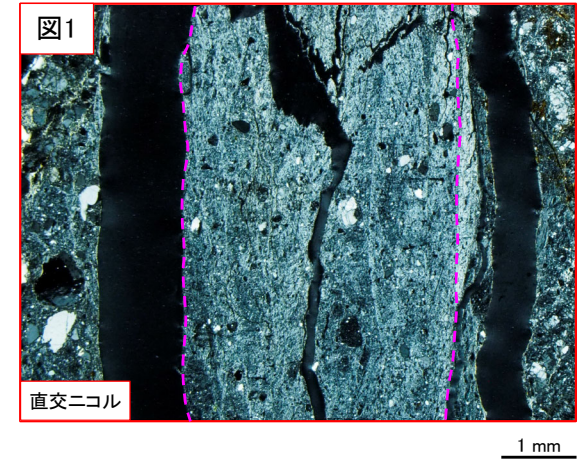
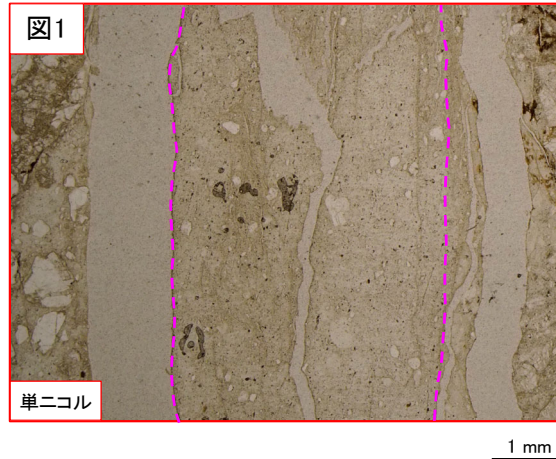


# 破砕部性状 H24-D1-2 深度12.38~12.97m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/3))

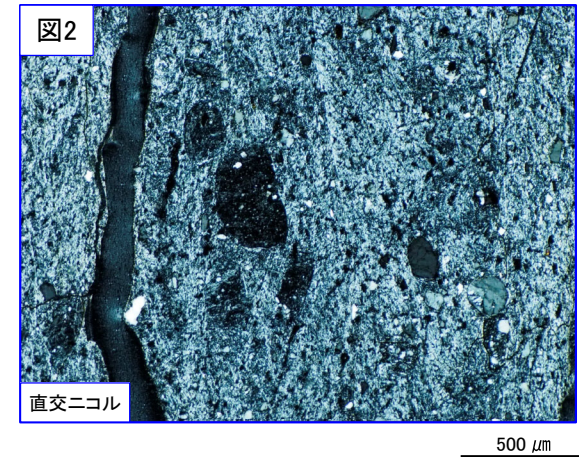
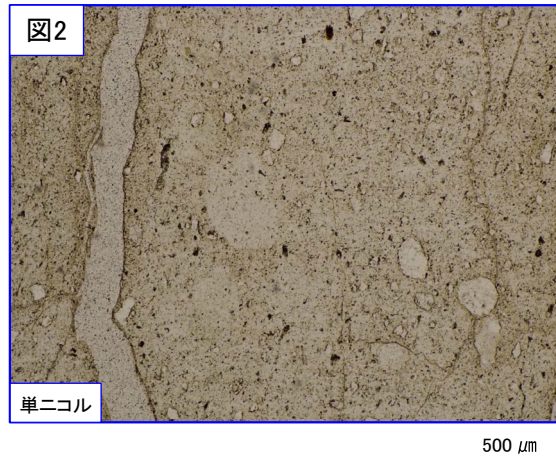
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



凡例  
 断層ガウジ  
 カタクレーサイト



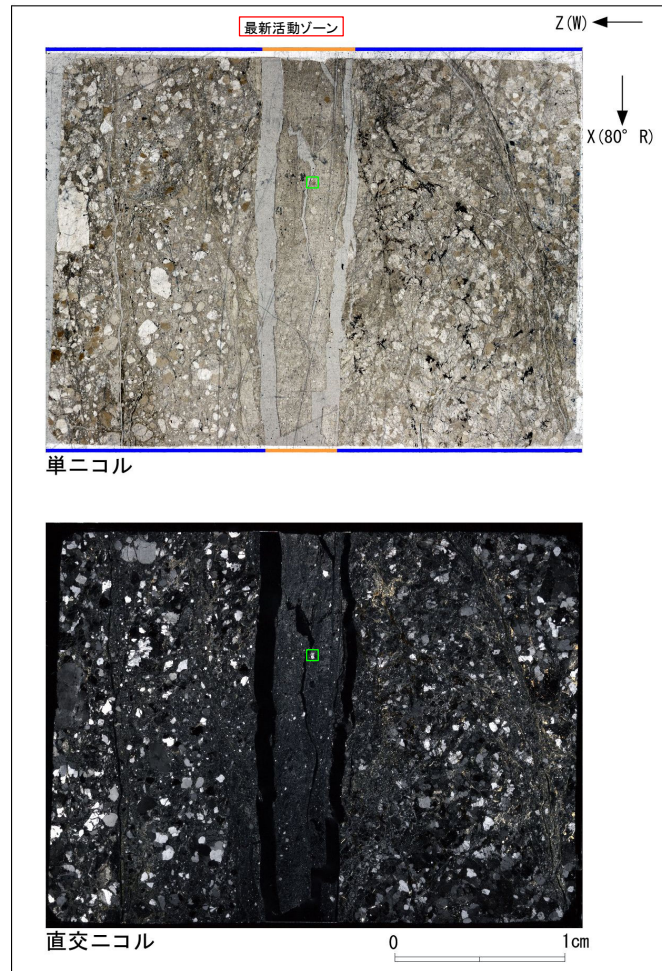
破線は帯状で直線的な粘土状部の範囲を示す





# 破碎部性状 H24-D1-2 深度12.38~12.97m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(3/3))

・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。  
 ➢ ジグソー状の角礫群が認められる。(図3)



凡例  
 断層ガウジ  
 カタクレーサイト



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す

## 破砕部性状 H24-D1-2 深度12.38～12.97m(断層岩区分の総合評価)

(肉眼観察結果 深度12.87m)

- ・ 肉眼観察では、粘土状部は、やや硬質で、細粒部の連続性及び直線性が良い。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質は細粒化した岩片からなる組織が認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- ・ 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面βに沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面βは最新活動面

(薄片観察結果)

- ・ 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
  - ・ 基質は粘土鉱物を主体とする。
  - ・ 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
  - ・ 岩片は少ない。
  - ・ 丸みを帯びている岩片が多い。
- ・ 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
  - ・ ジグソー状の角礫群が認められる。

最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- ・ 肉眼観察で確認された粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- ・ 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

| 断層ガウジ・<br>断層角礫の有無 | 断層ガウジ・<br>断層角礫の幅[cm]<br>* | 明瞭なせん断構造・<br>変形構造<br>* |
|-------------------|---------------------------|------------------------|
| 有                 | 0.5                       | 有                      |

\*：断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。

断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「－」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

H24-D1-2  
19.78~19.87m



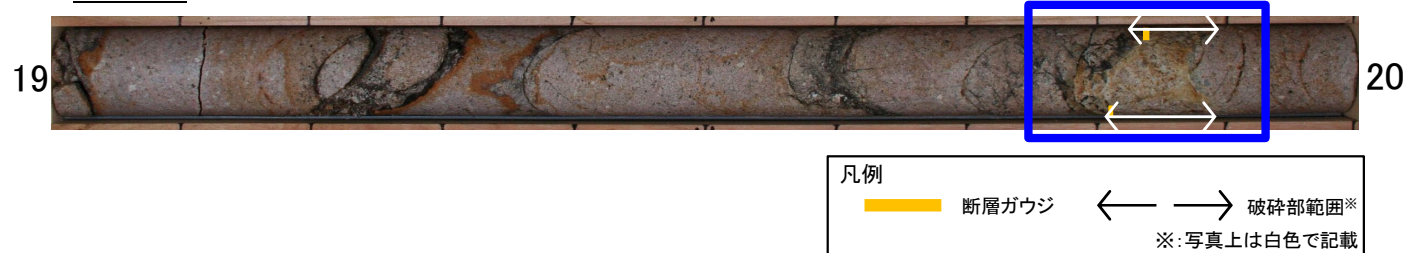
## 破砕部性状 H24-D1-2 深度19.78~19.87m(肉眼観察による断層岩区分)

- ・深度19.78~19.87mの「粘土混じり礫状」と記載の箇所については、やや硬質で、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・一方、深度19.82mには幅1mm以下の細粒部が挟在しており、幅が狭いため、肉眼観察では原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかった。これらのことから断層ガウジとして扱うこととした。

### ボーリング柱状図

- 19.78~19.87m：破砕部  
粘土混じり礫状部 (Hj)  
上端53°，下端63° とともに直線的でシャープに連続する。径1~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。やや硬質。浅黄橙色を呈する。幅10~50mmと膨縮する。
- 19.82mに幅1mm以下の灰白色粘土を直線的に挟在する。

### コア写真



細粒部が網目状に分布する

深度19.82mの幅1mm以下の細粒部

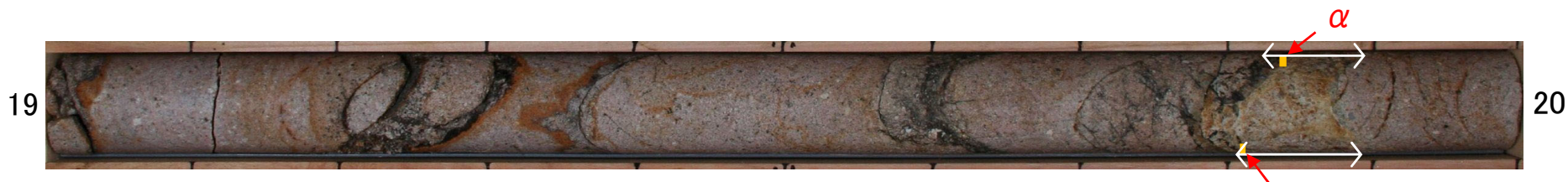


# 破砕部性状 H24-D1-2 深度19.78~19.87m(薄片作製位置)

・薄片は断層面  $\alpha$  及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。細粒化は、断層面  $\alpha$  に沿った幅1mm以下の範囲のみ。

コア写真

※断層面  $\alpha$  は最新活動面



凡例

- 断層ガウジ
- 破砕部範囲※
- 断層面

※:写真上は白色で記載

薄片作製位置写真



X:条線方向(下向きを正とする)  
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

5 cm

薄片全景写真(単ニコル)



X:条線方向(下向きを正とする)  
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

1 cm

凡例

- 断層面
- 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※

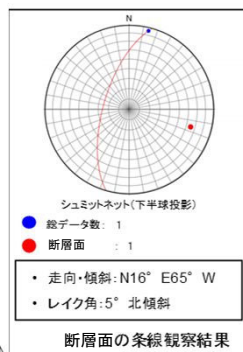
※:写真上は白色又は黒色で記載



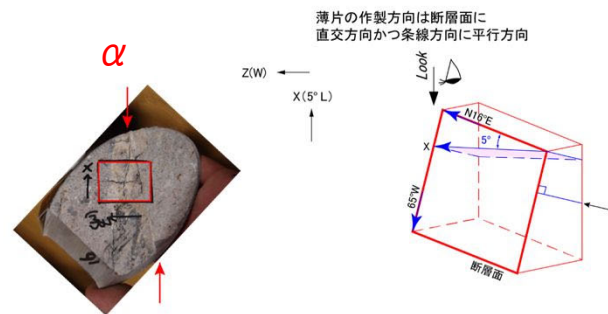
# 破碎部性状 H24-D1-2 深度19.78~19.87m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/3))

- ・H24-D1-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれ成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
  - (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
  - (カタクレーサイト) 断層面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。
  - (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
  - (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
  - (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。
  - (カタクレーサイト) 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。

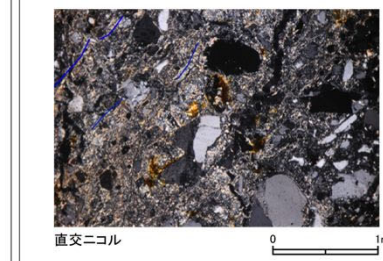
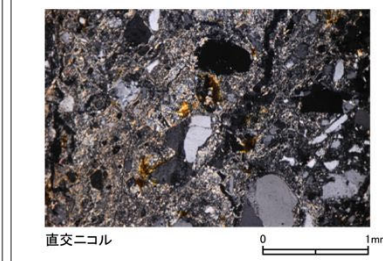
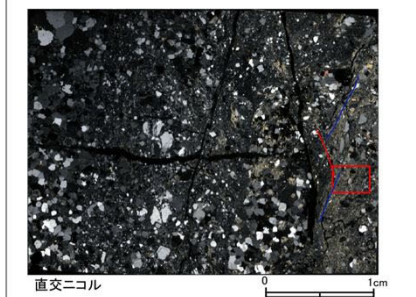
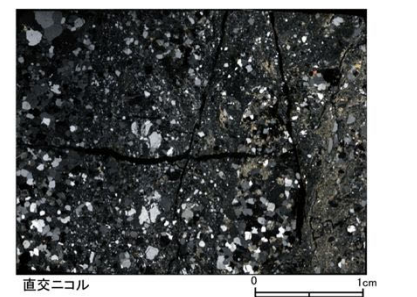
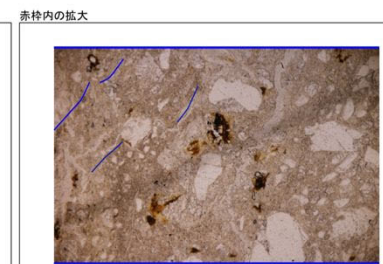
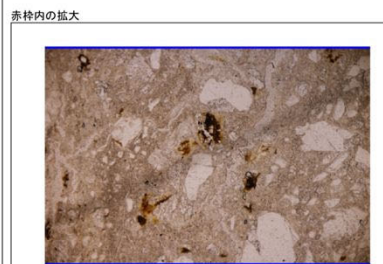
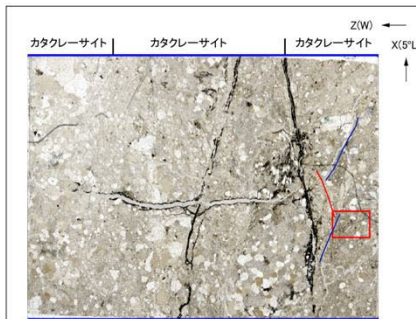
※断層面  $\alpha$  は最新活動面



最新活動ゾーン



0 10cm  
 ブロックサンプル

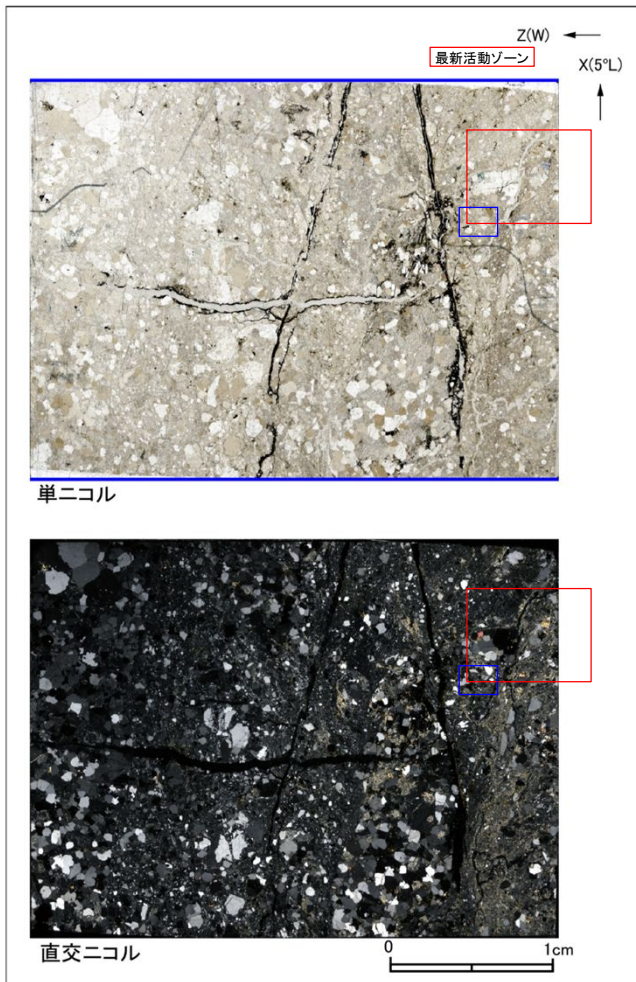


- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面



# 破碎部性状 H24-D1-2 深度19.78~19.87m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/3))

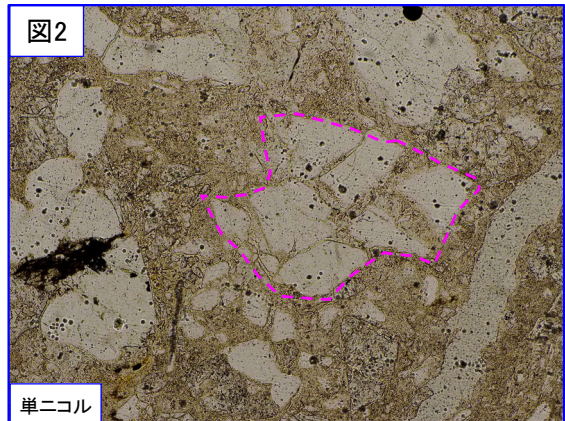
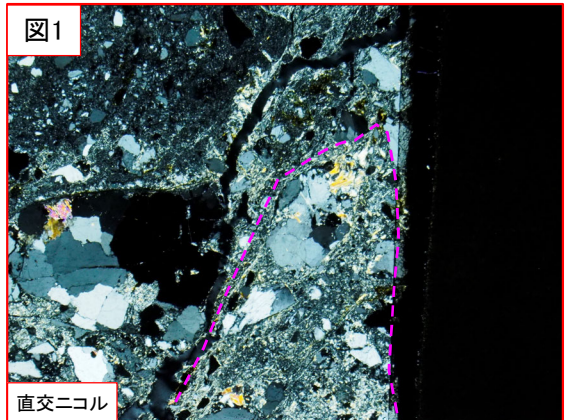
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
  - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
  - 断層面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。(図1)
  - 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
  - 角ばった岩片が多い。(図2)
  - ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



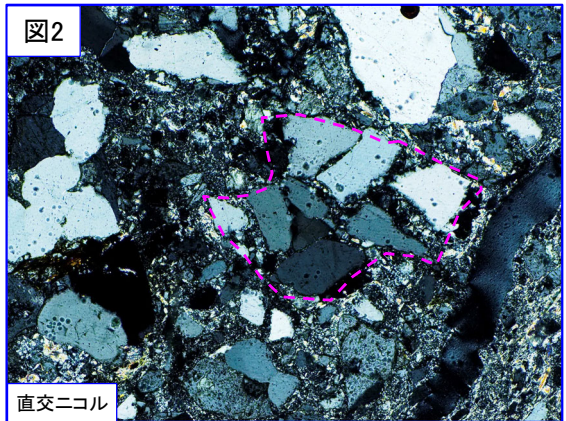
凡例  
 断層ガウジ  
 カタクレーサイト



破線は粘土状部の分布範囲を示す



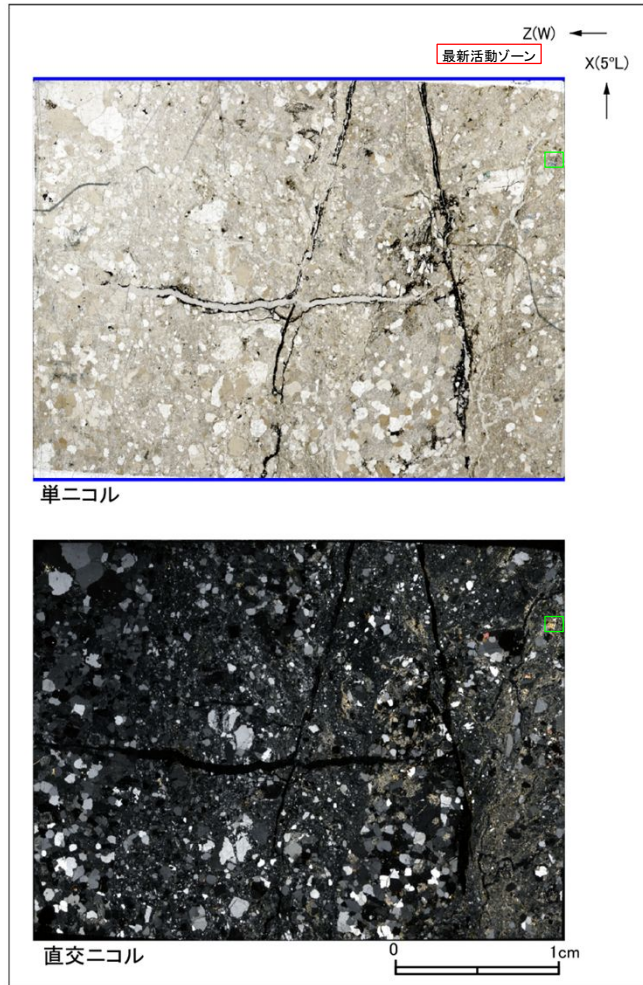
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す



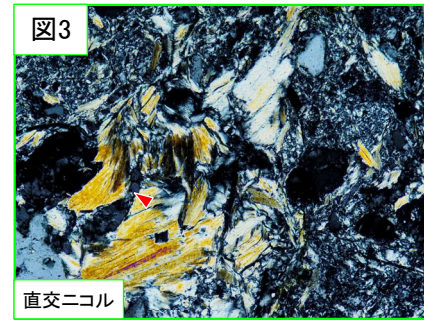
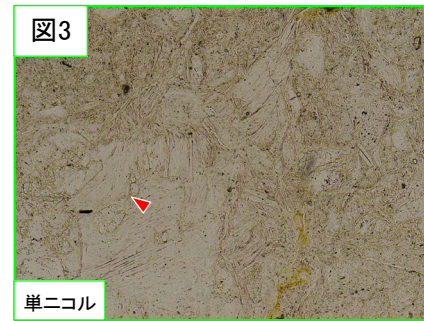


# 破碎部性状 H24-D1-2 深度19.78~19.87m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(3/3))

- ・最新活動ゾーンには, 以下の特徴が認められる。
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図3)



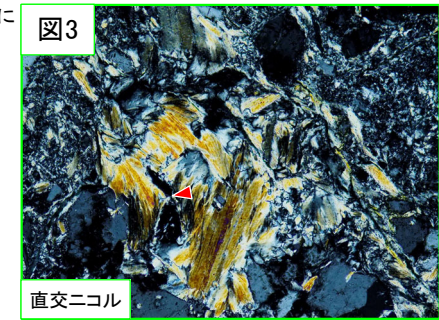
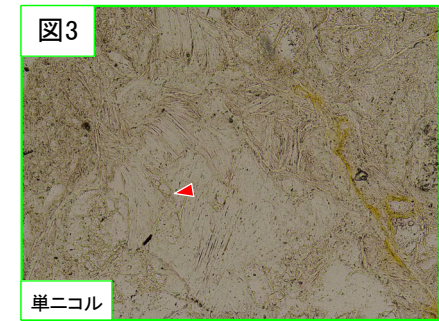
- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト



赤三角は屈曲箇所を示す 200 μm



ステージを反時計回りに  
約45度回転



赤三角は屈曲箇所を示す 200 μm

## 破砕部性状 H24-D1-2 深度19.78～19.87m(断層岩区分の総合評価)

(肉眼観察結果 深度19.82m)

- 深度19.82mの粘土混じり礫状部には幅1mm以下の細粒部が挟在しており、幅が狭いため、肉眼観察では原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかった。これらのことから断層ガウジとして扱うこととした。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 $\alpha$ に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 $\alpha$ は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められなかった。
  - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
  - 断層面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
  - 多様な粒径の岩片が多く認められる。
  - 角ばった岩片が多い。
  - ジグソー状の角礫群が認められる。
  - 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部をカタクレーサイトであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から変質したカタクレーサイトであると評価した。

- 肉眼観察で確認された粘土混じり礫状部の細粒部は、原岩組織の有無が判断できないことから、断層ガウジとして扱うこととした。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサイトであると判断した。
- 肉眼観察で確認された粘土混じり礫状部の細粒部沿いに、網目状の細粒部が認められる。これは敦賀サイトの露頭で認められる状況と同じであることから、熱水変質作用により生成したものと考えられる。

肉眼観察結果、薄片観察結果より、敦賀サイトの破砕部の特徴(熱水変質を受けたことにより軟質化している)を矛盾なく説明できることを確認した。

| 断層ガウジ・<br>断層角礫の有無 | 断層ガウジ・<br>断層角礫の幅[cm]<br>* | 明瞭なせん断構造・<br>変形構造<br>* |
|-------------------|---------------------------|------------------------|
| 無                 | -<br>(0.1)                | -<br>(無)               |

\* :断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。

断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。



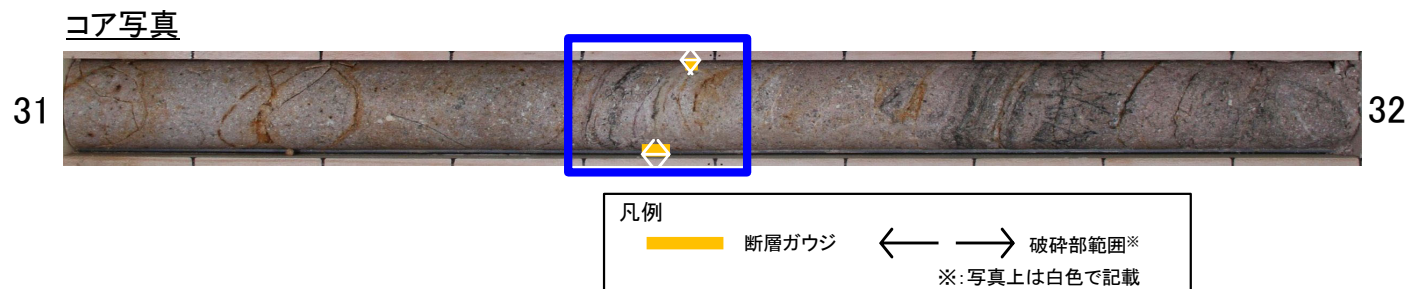
H24-D1-2  
31.44~31.46m

## 破砕部性状 H24-D1-2 深度31.44~31.46m(肉眼観察による断層岩区分)

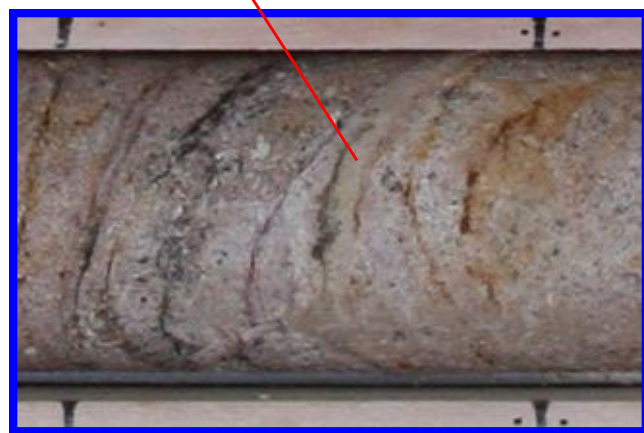
・深度31.44~31.46mの「粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

### ボーリング柱状図

●31.44~31.46m：破砕部  
粘土状部 (Hc-1)  
傾斜35°で直線的にシャープに連続。  
径1~2mmの石英粒を含む。軟質。灰  
白~にぶい黄橙~灰赤色を呈する。  
幅10~12mm。



連続性及び直線性が良い細粒部



青枠部拡大

0 5 cm

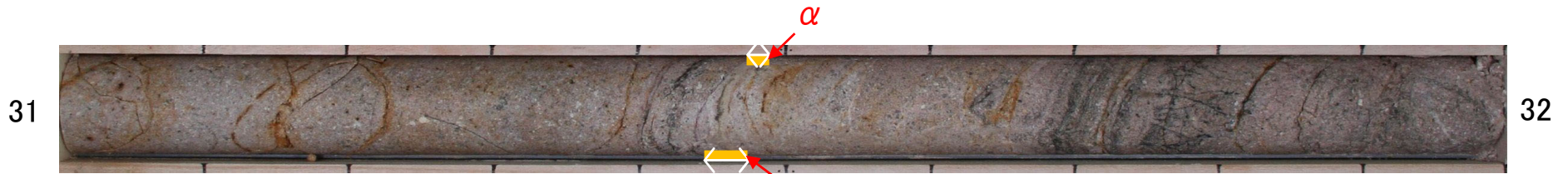


# 破砕部性状 H24-D1-2 深度31.44~31.46m(薄片作製位置)

・薄片は断層面  $\alpha$  及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

※断層面  $\alpha$  は最新活動面

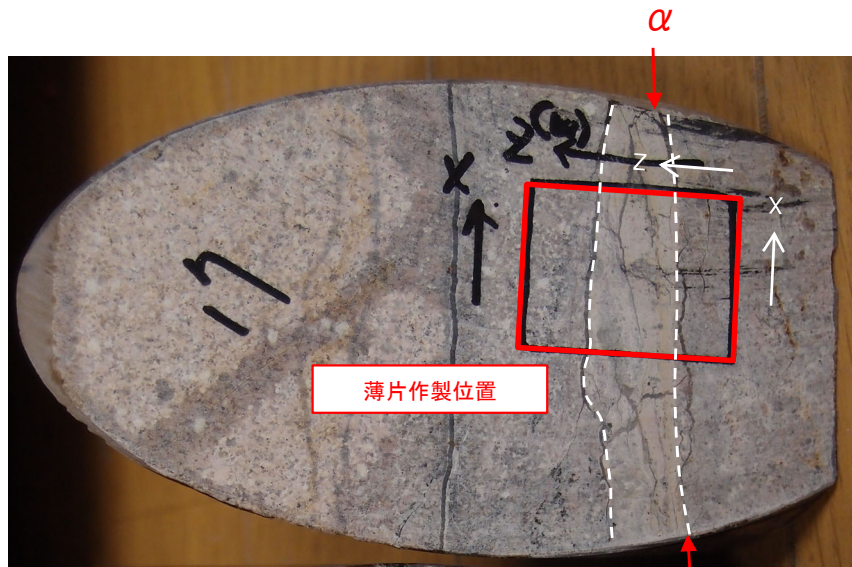
コア写真



凡例

▬ 断層ガウジ     $\longleftrightarrow$  破砕部範囲\*     $\rightarrow$  断層面  
 ※: 写真上は白色で記載

薄片作製位置写真



X: 条線方向 (下向きを正とする)  
Z: 断層面の法線方向 (上盤側を正とする)

5 cm

薄片全景写真(単ニコル)



X: 条線方向 (下向きを正とする)  
Z: 断層面の法線方向 (上盤側を正とする)

1 cm

凡例

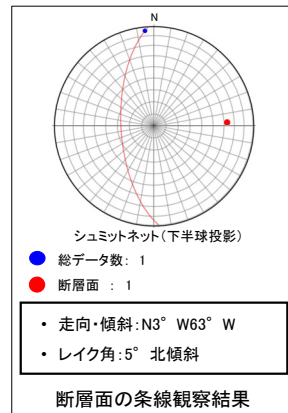
$\rightarrow$  断層面    - - - - 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲\*  
 ※: 写真上は白色又は黒色で記載



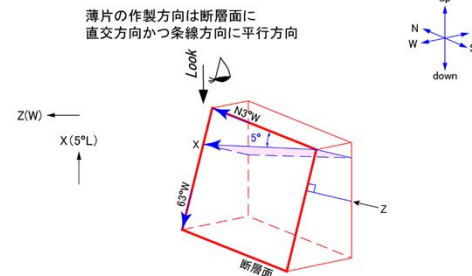
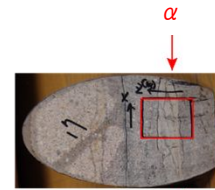
# 破砕部性状 H24-D1-2 深度31.44~31.46m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

- ・H24-D1-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば, **最新活動ゾーン**の変位センスは, 右ずれ成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンには, 断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが, カタクレーサイトの特徴は, カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
- (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
- 岩片は少ない。
- (カタクレーサイト)粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。
- (カタクレーサイト)角ばった岩片が多い。

※断層面  $\alpha$  は最新活動面

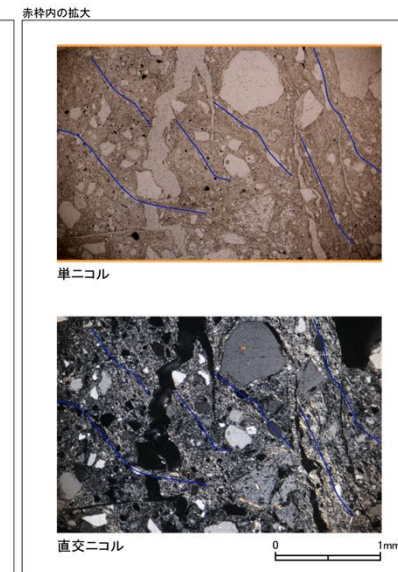
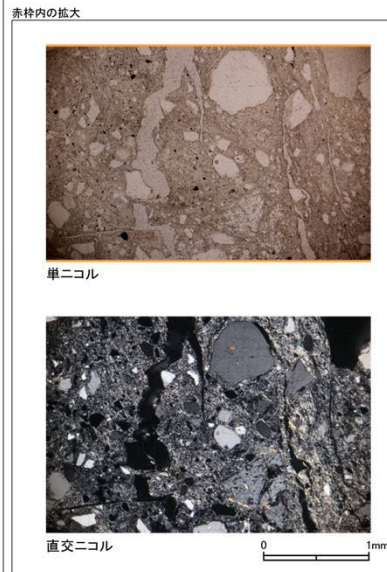
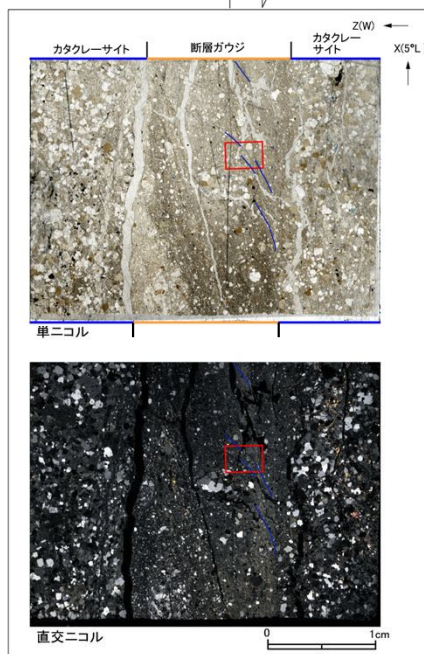
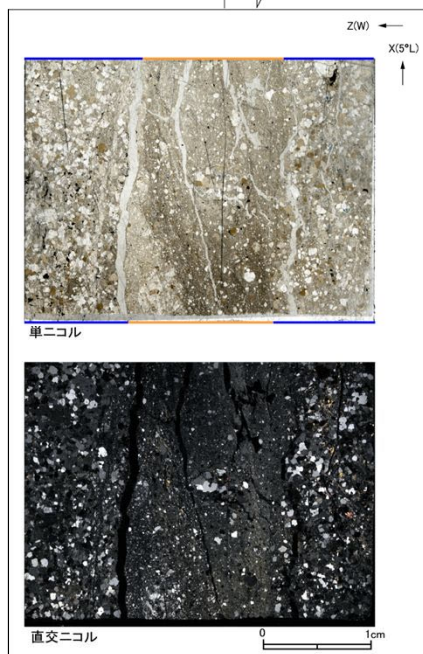


最新活動ゾーン



0 10cm  
ブロックサンプル

走向・傾斜 N3°W 63°W  
 X: 条線方向(下向きを正とする)  
 Z: 断層面の法線方向(上側側を正とする)

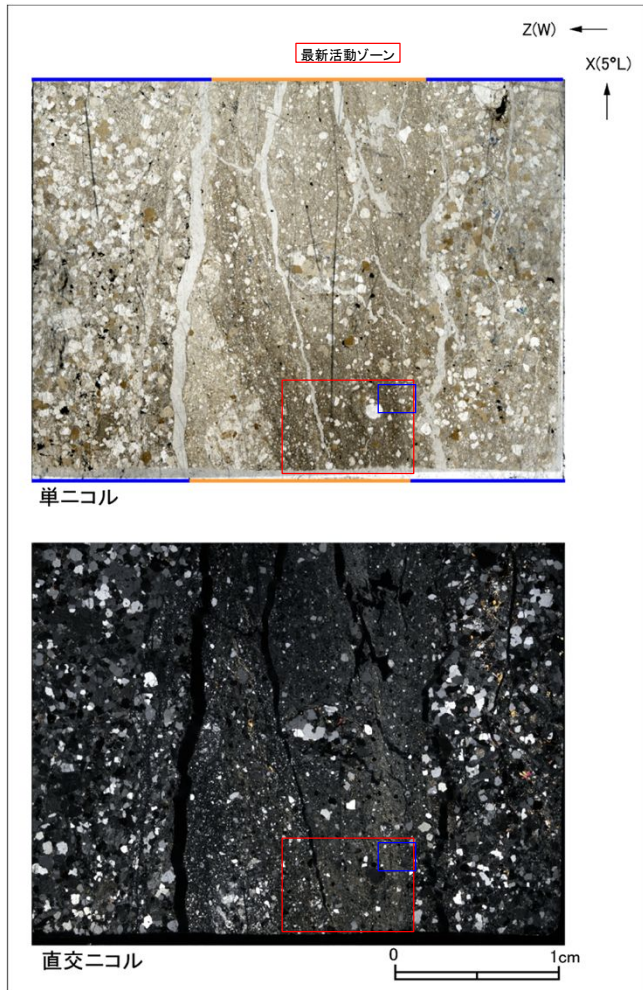


- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面

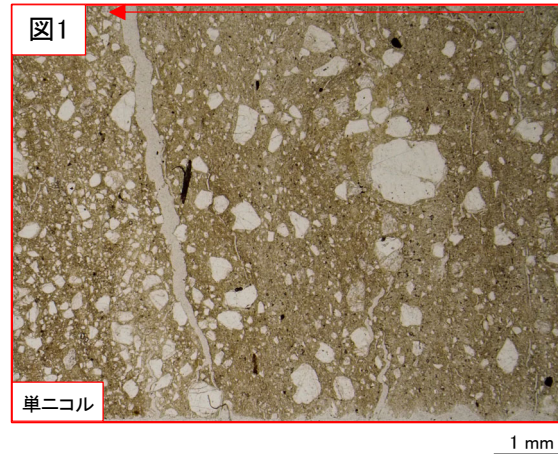


# 破碎部性状 H24-D1-2 深度31.44~31.46m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/2))

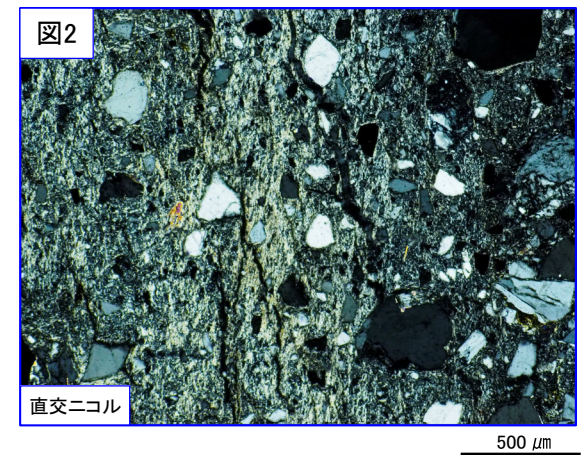
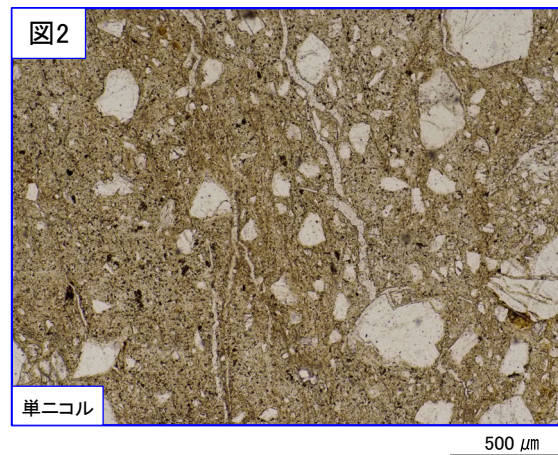
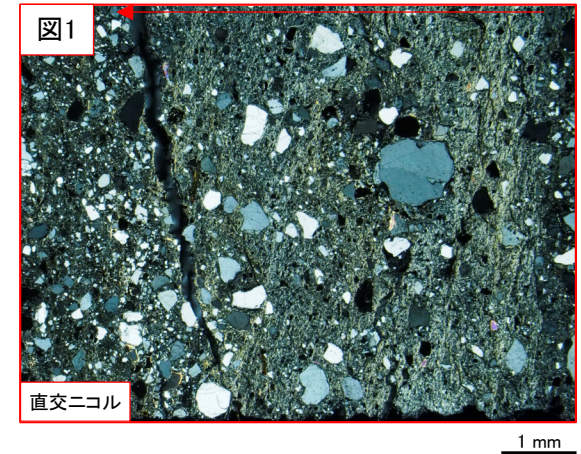
- ・最新活動ゾーンには, 以下の特徴が認められる。
  - 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
  - 岩片は少ない。(図2)
  - 粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。(図1)
  - 角ばった岩片が多い。(図2)



凡例  
 断層ガウジ  
 カタクレーサイト



赤矢印: 粘土鉱物の分布は漸移的に変化する



## 破砕部性状 H24-D1-2 深度31.44～31.46m(断層岩区分の総合評価)

(肉眼観察結果 深度31.46m)

- ・ 肉眼観察では、粘土状部は、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質は細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- ・ 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 $\alpha$ に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 $\alpha$ は最新活動面

(薄片観察結果)

- ・ 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
  - ・ 基質は粘土鉱物を主体とする。
  - ・ 岩片は少ない。
- ・ 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
  - ・ 粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。
  - ・ 角ばった岩片が多い。

最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- ・ 肉眼観察で確認された粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- ・ 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

| 断層ガウジ・<br>断層角礫の有無 | 断層ガウジ・<br>断層角礫の幅[cm]<br>* | 明瞭なせん断構造・<br>変形構造<br>* |
|-------------------|---------------------------|------------------------|
| 有                 | 1.2                       | 有                      |

\* : 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。

断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。



H24-D1-4  
10.91 ~ 10.93m

## 破碎部性状 H24-D1-4 深度10.91~10.93m(肉眼観察による断層岩区分)

・深度10.91~10.93mの「礫混じり粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

### ボーリング柱状図

●10.91~10.93m：破碎部（D-1破碎帯）

礫混じり粘土状部（Hc-2）

上端35°，下端38°でともに直線的でシャープに連続する。径1~2mmの石英粒と粘土化した径3~5mmの岩片を若干含む。軟質。下端には石英粒、岩片を含まない軟質な幅1~2mmの灰白色粘土が連続する。全体は浅黄橙色を呈する。幅15~18mm。

### コア写真



凡例

断層ガウジ

← →

破碎部範囲\*

※:写真上は白色で記載



青粋部拡大

0 5 cm

連続性及び直線性が良い細粒部



# 破砕部性状 H24-D1-4 深度10.91~10.93m(薄片作製位置)

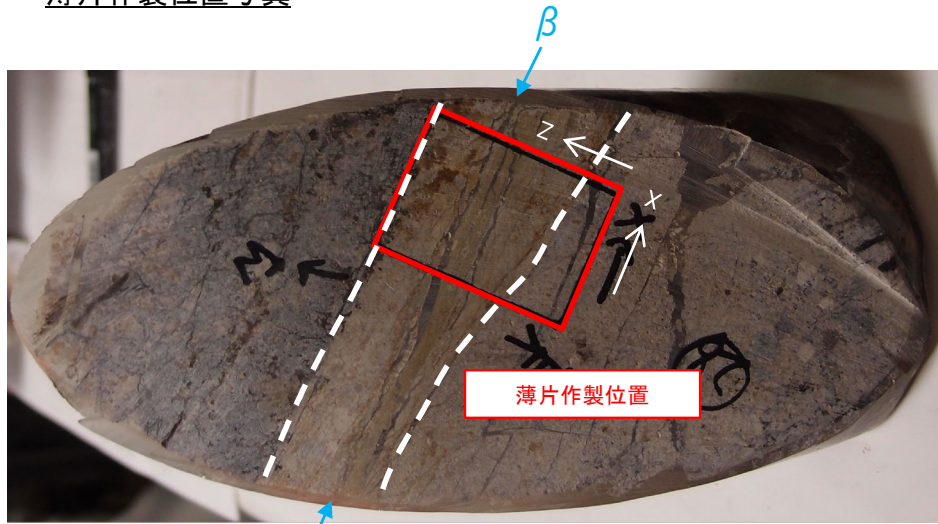
・薄片は断層面β及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真



凡例  
 断層ガウジ ← → 破砕部範囲※  
 ※:写真上は白色で記載  
 断層面

薄片作製位置写真

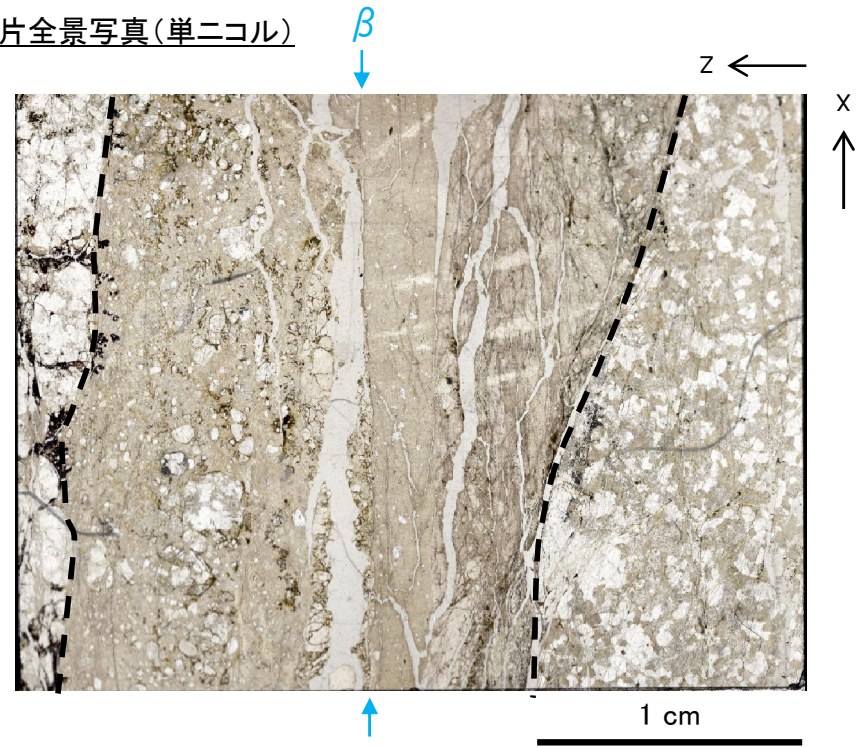


X:糸線方向(下向きを正とする)  
 Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

5 cm

凡例  
 断層面  
 ----- 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※  
 ※:写真上は白色又は黒色で記載

薄片全景写真(単ニコル)



X:糸線方向(下向きを正とする)  
 Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

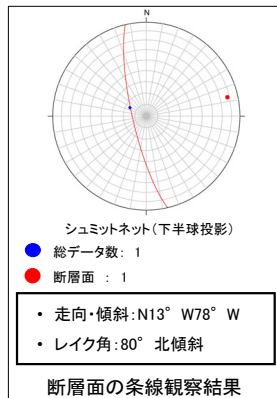
1 cm



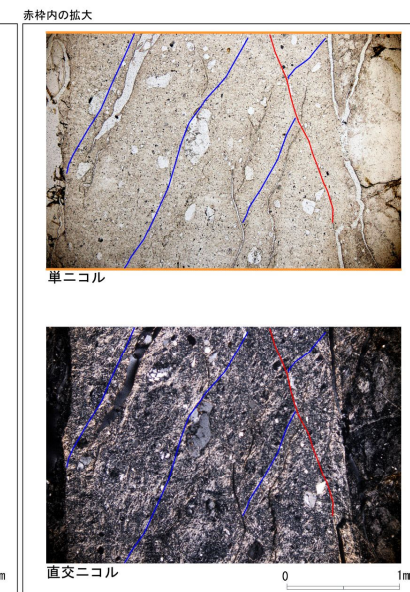
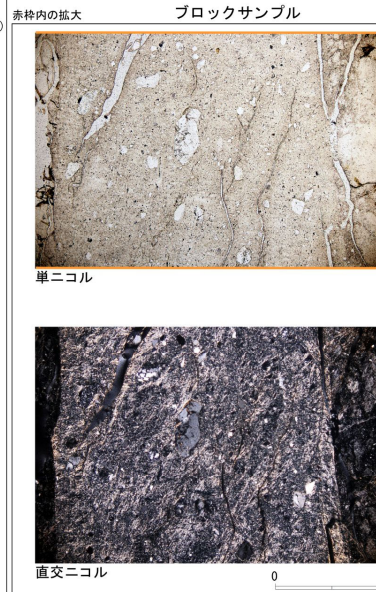
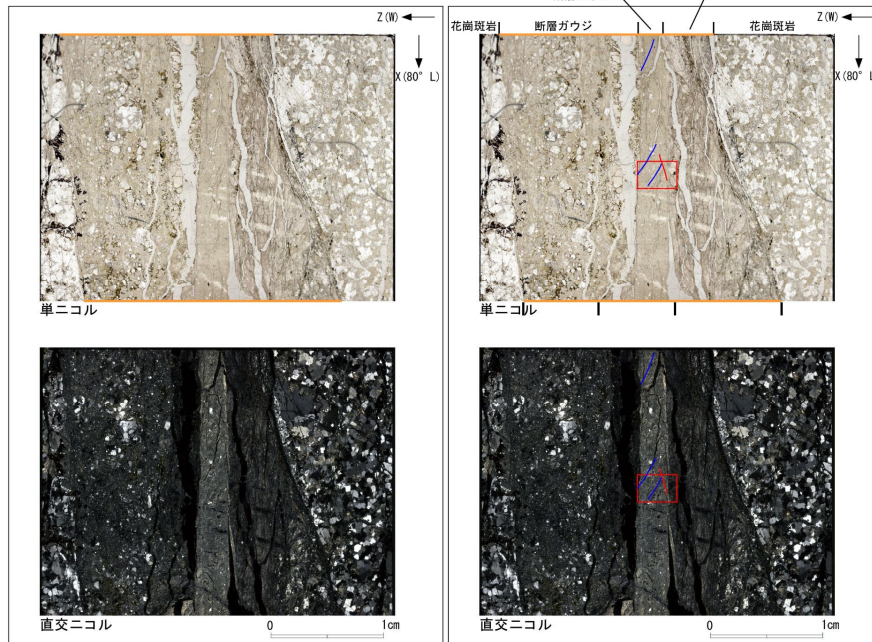
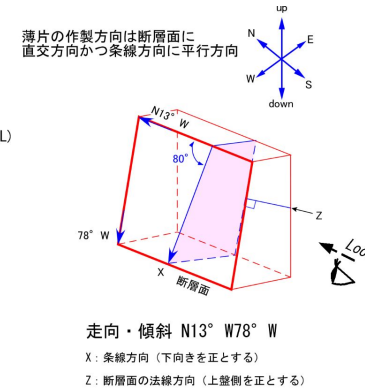
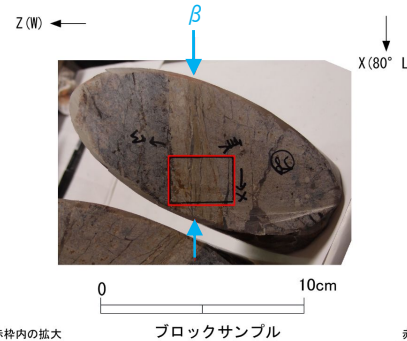
# 破砕部性状 H24-D1-4 深度10.91~10.93m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

- ・H24-D1-4のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、正断層成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
  - (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
  - (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
  - (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
  - 岩片は少ない。
  - (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。

※断層面βは最新活動面



最新活動ゾーン



- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面

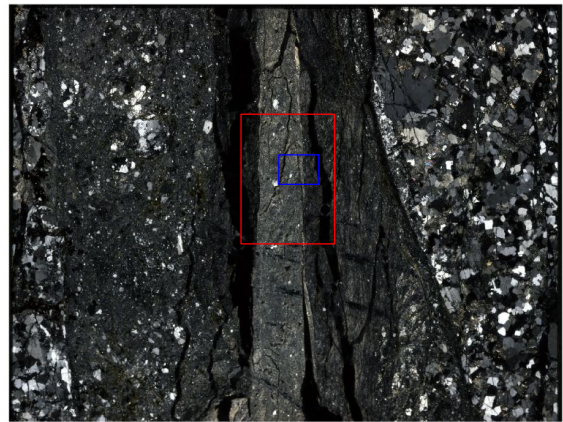


# 破碎部性状 H24-D1-4 深度10.91~10.93m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/2))

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)

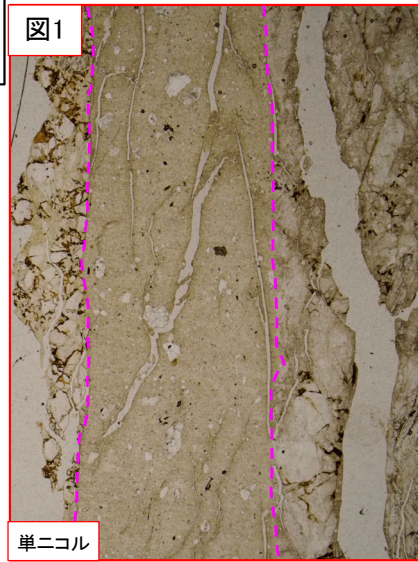


単ニコル



直交ニコル

凡例  
 断層ガウジ  
 カタクレーサイト



単ニコル

1 mm

破線は帯状で直線的な粘土状部の範囲を示す

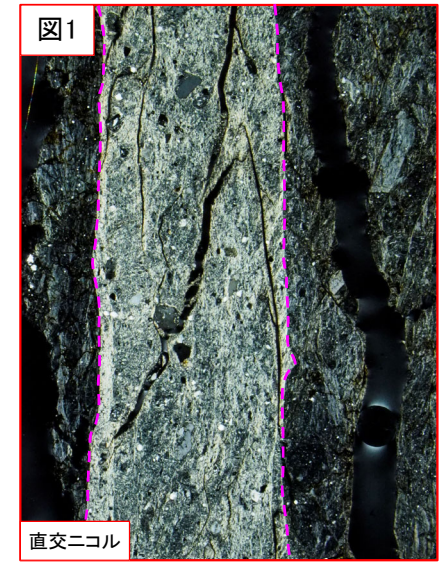


図1

直交ニコル

1 mm

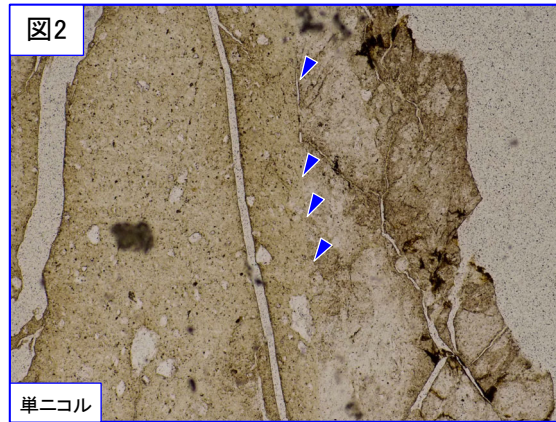


図2

単ニコル

500 μm

青三角の方向は粘土鉱物の配列方向を示す

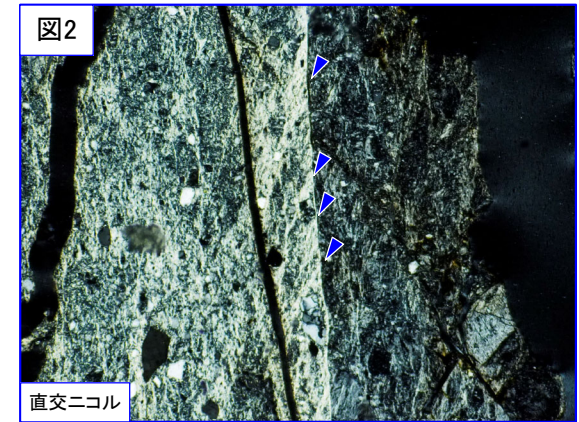


図2

直交ニコル

500 μm

## 破砕部性状 H24-D1-4 深度10.91～10.93m(断層岩区分の総合評価)

(肉眼観察結果 深度10.93m)

- 肉眼観察では、礫混じり粘土状部は軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 $\beta$ に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 $\beta$ は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
  - せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
  - 基質は粘土鉱物を主体とする。
  - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
  - 岩片は少ない。
  - 丸みを帯びている岩片が多い。
- 薄片観察では、カタクレーサイトの特徴が認められなかった。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された軟質な礫混じり粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

| 断層ガウジ・<br>断層角礫の有無 | 断層ガウジ・<br>断層角礫の幅[cm]<br>* | 明瞭なせん断構造・<br>変形構造<br>* |
|-------------------|---------------------------|------------------------|
| 有                 | 1.8                       | 有                      |

\*：断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。

断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「－」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。



**H24-D1-4**  
**27.75 ~ 28.43m**

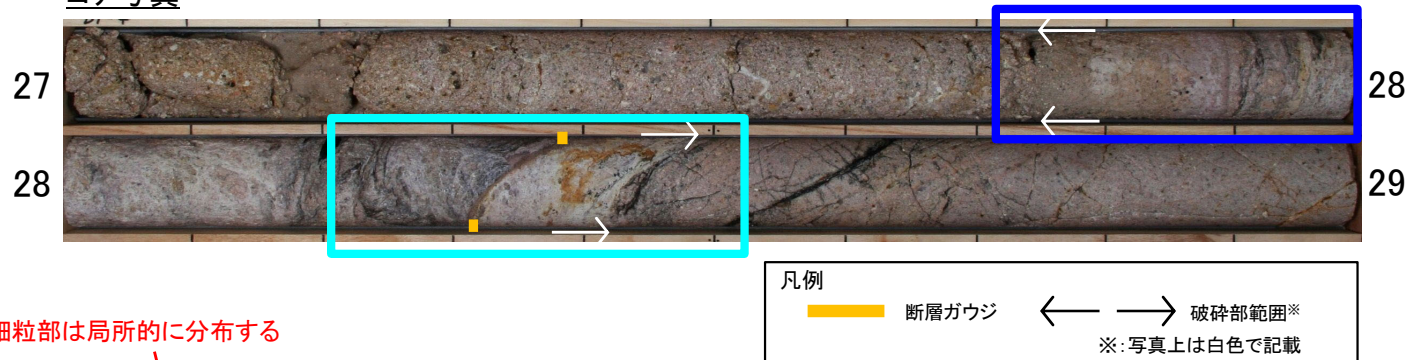
## 破碎部性状 H24-D1-4 深度27.75~28.43m(肉眼観察による断層岩区分)

- 深度27.75~27.91mの「粘土質礫状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- 深度27.91~28.33mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- 深度28.33mの「粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。
- 深度28.33~28.43mの「粘土質礫状」と記載の箇所については、軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

### ボーリング柱状図

● 27.75~28.43m: 破碎部  
 27.75~27.91m: 粘土質礫状部 (Hb)  
 上端20°で砂状化し不明瞭, 下端15°で直線的にシャープに連続。径2~3mmの石英粒, 径5~10mmのほぼ粘土化した岩片を多く含む。やや軟質。下端は幅2~3mmでマンガン鉱染を受ける。上端側は明褐灰色, 下端側は明赤灰色でマンガン鉱染部は黒褐色を呈する。幅160mm。  
 27.91~28.33m: 粘土混じり岩片状部 (Hj)  
 上端15°, 下端53°とともに直線的でシャープに連続。幅1~5mmの灰黄~にぶい黄橙~灰白色の軟質粘土が27.91~27.96mでは10~20°で, 27.96m以深では網状に分布する。全体に明褐灰~にぶい黄橙色を呈する。  
 28.33m: 粘土状部 (Hc-1)  
 傾斜53°で直線的にシャープに幅2~5mmの灰黄褐色の軟質な粘土からなる。  
 28.33~28.43m: 粘土質礫状部 (Hb)  
 上端53°, 下端60°とともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径3~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟質。灰白~明赤灰~明黄褐色を呈する。幅60mm。

### コア写真



細粒部は局所的に分布する



青砕部拡大

細粒部が網目状に分布する

連続性及び直線性が良い細粒部

細粒部が網目状に分布する



水色砕部拡大

細粒部が網目状に分布する

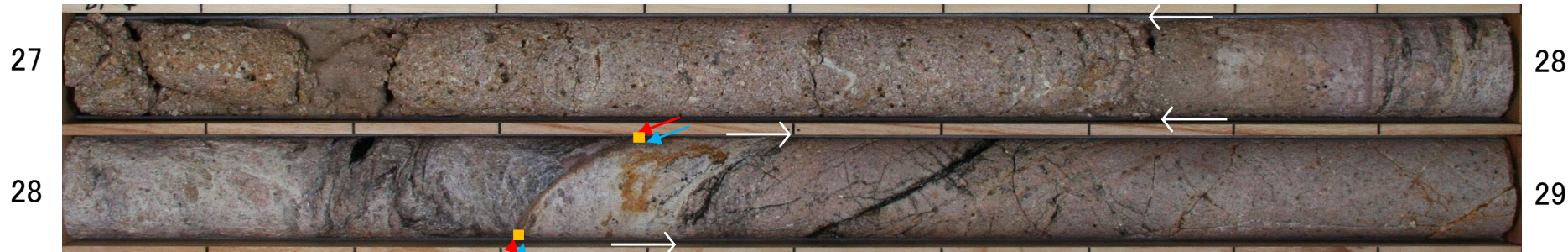


# 破砕部性状 H24-D1-4 深度27.75~28.43m(薄片作製位置)

・薄片は断層面  $\alpha$ ,  $\beta$  及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

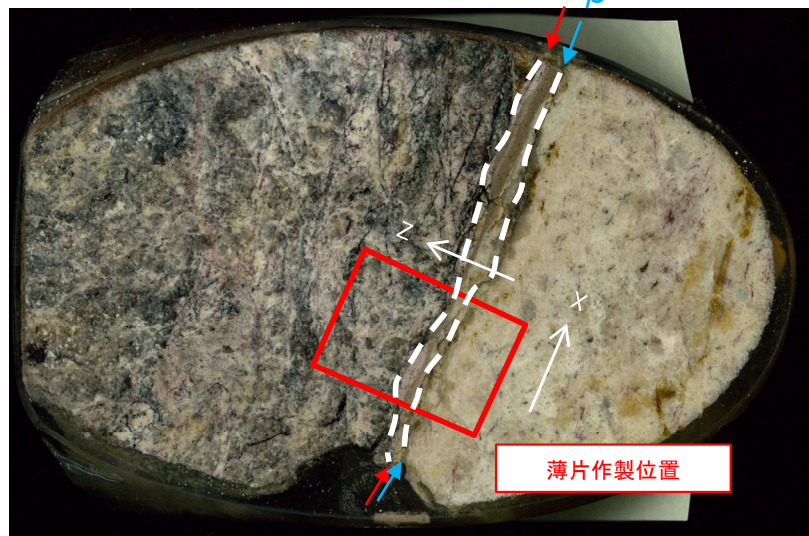
コア写真

※断層面  $\alpha$  は最新活動面



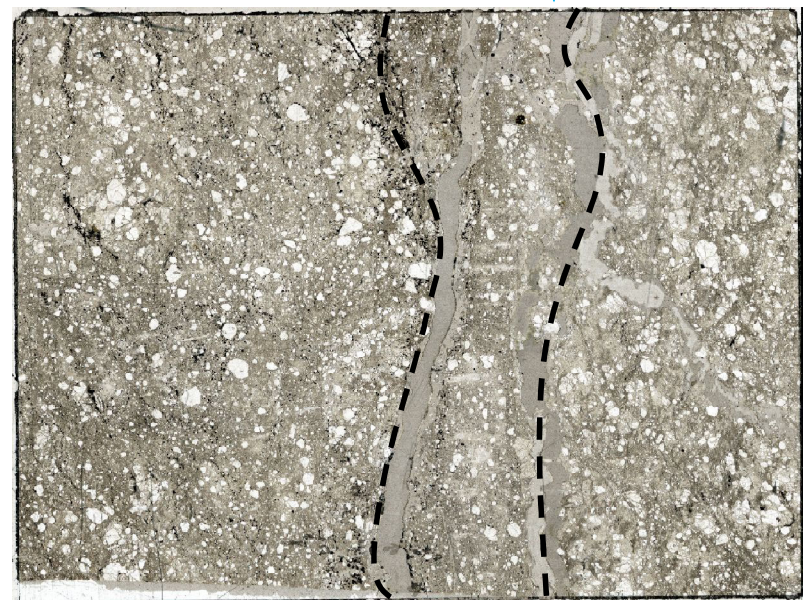
凡例  
 断層ガウジ    ← → 破砕部範囲※    断層面  
 ※: 写真上は白色で記載

薄片作製位置写真



X: 糸線方向(下向きを正とする)  
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

薄片全景写真(単ニコル)



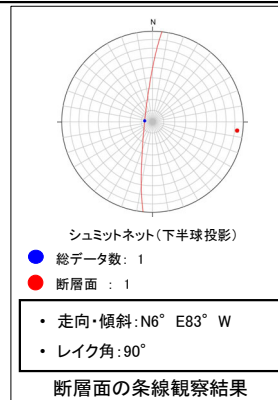
X: 糸線方向(下向きを正とする)  
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

凡例  
 断層面    ----- 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※  
 ※: 写真上は白色又は黒色で記載

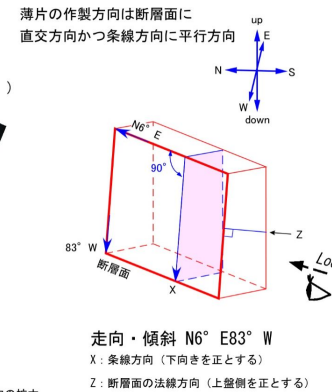
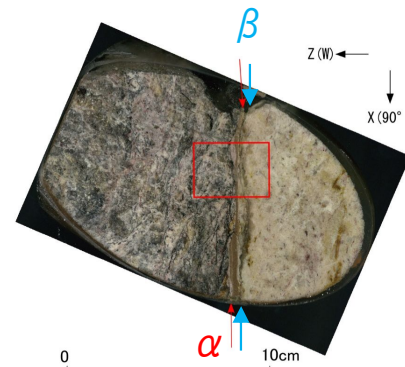


# 破砕部性状 H24-D1-4 深度27.75~28.43m(変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/3))

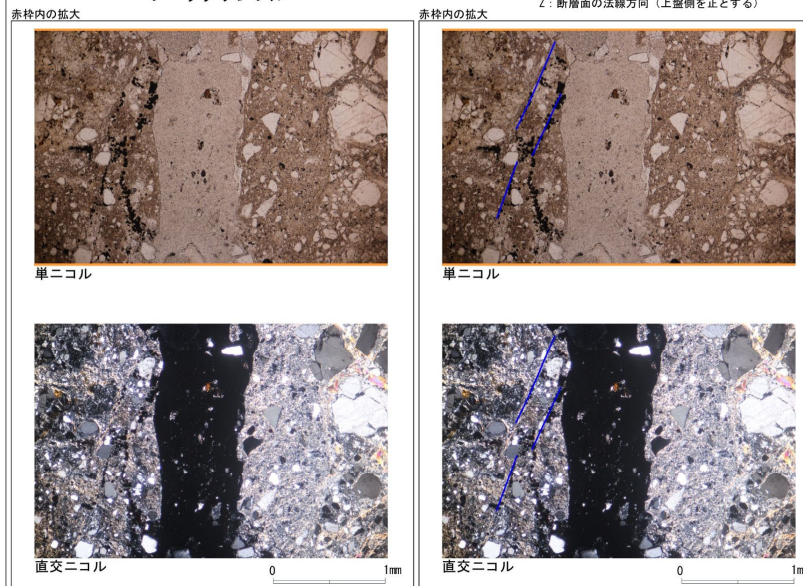
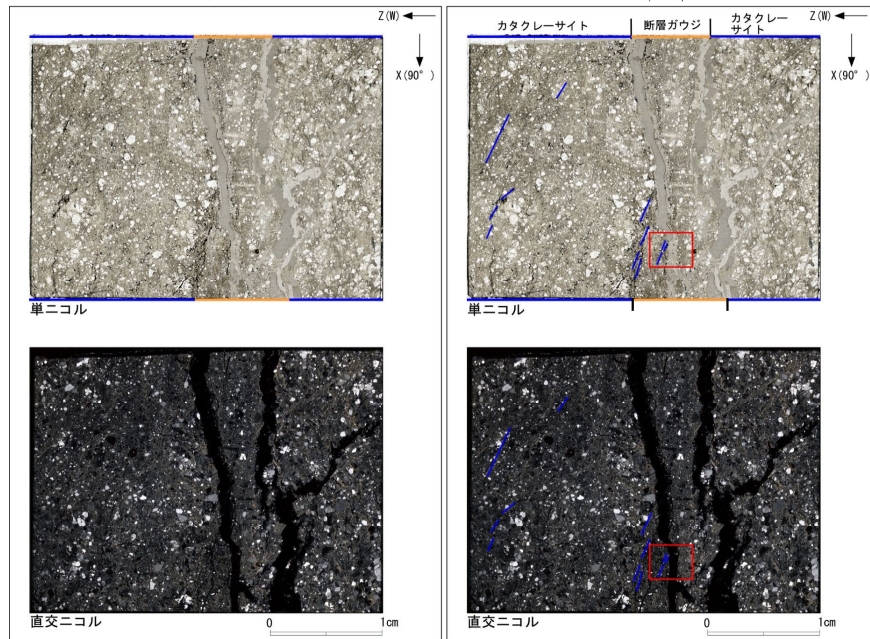
- ・H24-D1-4のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば**最新活動ゾーン**の変位センスは、正断層成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
- (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- (カタクレーサイト)角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト)岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- (カタクレーサイト)ジグソー状の角礫群が認められる。
- (カタクレーサイト)塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



最新活動ゾーン



※断層面  $\alpha$  は最新活動面



- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面